

**次期総合計画・都市計画マスタープラン
田名地区まちづくり会議報告書**

平成30年9月

田名地区まちづくり会議

目 次

(課題と対応方策)

- 1 都市計画・都市整備・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
- 2 **【重点】**道路・交通・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
- 3 住環境・生活環境・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
- 4 自然・環境・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
- 5 産業・観光・商店街・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
- 6 安全・安心・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5
- 7 健康・医療・福祉・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5
- 8 教育・子育て・・・・・・・・・・・・・・・・ P 6
- 9 **【重点】**地域コミュニティ・・・・・・・・・・・・・・・・ P 6

(付属資料)

- 会議経過・・・・・・・・・・・・・・・・ P 7

1 都市計画・都市整備

現状と課題

緑豊かな住みよい田名の将来のために、住宅地、工業・流通用地、農業用地、緑地など、利用区分によるバランスのとれた計画的・有効的な土地利用の推進が課題となっています。特に農業用地については、遊休農地の増加が懸念されております。農業用地が多くを占める市街化調整区域の有効活用や、田名地区の豊かな自然環境を活かした魅力づくりによって、地域を活性化するための検討が必要です。

対応方策

- ・農地の貸し手と借り手を仲介する既存の仕組みを活用することなどで、遊休農地の再生や新規就農者の参入を促進し、農業用地の有効活用を図る。
(行政・民間)



2 【重点】道路・交通

現状と課題

小田急多摩線の延伸については、平成 28 年 4 月の交通政策審議会答申に延伸（唐木田～上溝）が位置づけられましたが、上溝から田名地区を経由した愛川・厚木方面への延伸についても、早期実現に向けて声を上げ続ける必要があります。

道路整備に関しては、国道 129 号線沿いでの大規模な物流施設の建設により、周辺道路への交通渋滞が懸念されます。

また、田名地区の交通利便性を向上させるため、田名バスターミナルを軸とした乗継利便性の向上や定時性の確保とともに、渋滞緩和に向けた、田名地区及び周辺地域との円滑な交通ネットワークの確保につながる整備が求められます。

対応方策

小田急多摩線延伸について、上溝から田名地区を経由した愛川・厚木方面への延伸の早期実現を図るとともに上溝新駅の設置にあたっては駅位置や構造等について上溝以西への延伸を見据えた検討を行う。（行政・市民）

- ・ 国道 129 号線沿いに建設予定の大規模物流施設の建設により、予想されるトラックによる交通渋滞については、物流と生活の両面で道路が使用できるような地域への配慮について、事業者と協議ができる環境の整備を行う。（行政）
- ・ 田名バスターミナルを軸として、愛川・城山方面からの利用に向けた検討やバス路線の利便性向上を図る。（行政・民間）
- ・ 渋滞緩和のために、他地区も含めた道路整備を行う。（行政）

3 住環境・生活環境

現状と課題

田名地区では、今後、空き家の増加が懸念されており、空き家を放置することで、防災・防犯上の問題や、蜂が巣を作る、アライグマ・ハクビシンなどの野生生物が住みつくななどの問題の発生が懸念されます。また、住居表示が一部実施されている地区もあるが、訪問しやすい、わかりやすいまちづくりのために未実施地区についても、さらに進めていく必要があります。

対応方策

- ・空き家については、現状確認を進めるとともに、撤去や有効活用のための検討を行う。(行政・市民)
- ・地区内の地番整理や住居表示については、先行して実施した地区事例を参考に未実施個所の実施に向けた検討を進める。(行政)

4 自然・環境

現状と課題

田名地区では、相模川や八瀬川など豊かな自然環境が形成されていますが、周辺緑地の整備や八瀬川の水源といった自然環境の維持及びその活用が十分ではないという状況があります。

対応方策

- ・相模川の資源を生かし、望地河原の国有地や水田を活用した親水公園として遊歩道・サイクリングロードを整備するとともに、集約した水田を活用した農業へのふれあいを振興していく。(行政)
- ・八瀬川の水源を守るとともに、周辺緑地の整備を行うことで豊かな自然環境を保全する。(行政)
- ・住民が気軽に集まれる広場の整備などにより、周辺緑地を憩いの場として活用する。(行政)

5 産業・観光・商店街

現状と課題

田名地区では、地域の活性化に向け観光資源や圏央道の開通を生かし、集客や新たな雇用の創出が見込める施設の設置が求められます。そうした取組によって、新たな住民を呼び込むなど、小田急多摩線延伸の実現に向けた取組につなげていく必要があります。

対応方策

- ・観光資源として、相模川の河原でのバーベキュー、鮎などの既存の地域資源をより一層PRするとともに、隣接している地域と連携したサイクリングロードや休憩所などの関連施設の整備を行う。(行政・市民)
- ・子どもが水遊びをしたり、動物と触れ合える場所を作り、身近な観光資源として、ふれあい科学館との連携を検討する。(行政・民間)
- ・八瀬川のせせらぎや望地のホテルなどの自然環境を地域資源としてPRする。(行政・市民)
- ・圏央道を生かして、アウトレットモールの誘致や道の駅の設置を検討する。(行政・民間)



6 安全・安心

現状と課題

田名地区では、青色防犯パトロールカーの導入による防犯パトロールの実施によって防犯意識が高まっております。さらに、防犯灯のLED化により、夜間、道が明るくなりました。しかし、自転車の交通事故の発生などの課題があり、対策が求められます。

対応方策

- ・交通ルールを守る標識の設置や幹線道路への自転車専用道の設置を検討する。
(行政・市民)
- ・自転車に関する交通事故発生状況を分析し、有効な対策を実施する。
(行政・市民)

7 健康・医療・福祉

現状と課題

田名地区の医療機関は、身近な医療機関として住民に安心感をもたらしてきましたが、今後進む高齢化に伴い、より一層の医療体制の充実と健康づくりの支援が求められます。

また、退職後の活動の場や、一人暮らしの高齢者等の集いの場作りなど、地域社会との関わりを深めてもらう取組が求められます。

対応方策

- ・田名地区への総合病院の誘致や近隣地域の総合病院へのバス路線の検討などアクセス性の向上を図る。(行政・民間)
- ・高齢者が気軽に介護予防に取り組めるよう、健康増進・維持のための施設の設置について検討する。(行政・民間)
- ・一人暮らしの高齢者、育児に悩む若い母親など、孤立しがちな地域の人たちの交流の場として空き家の活用を検討するなど、地域における「集いの場作り」を進める。(行政・市民)

8 教育・子育て

現状と課題

田名地区に限らず、学校・家庭が連携して地域で子どもを育てていく環境づくりが求められています。また、子どもの遊び場に関して、小さな公園はあるが、野球などのスポーツができる公園がない状況です。また、学習の遅れがある子ども達の学力向上に向けた対策として、経済的に困難な状況にある子どもたちを含めた学習支援が求められます。

対応方策

- ・子どもの遊び場として、学校の開放を検討する。(行政)
- ・子どもの見守りに、地域の方に担い手として関わっていただく。(市民)
- ・公民館や空き家を拠点に無料の勉強会や絵画教室、囲碁教室などを実施し、子どもと高齢者が交流できる場の設置を検討する。(市民)
- ・地域と子どもが一体で活動できるような組織作りとして、子ども会の再興に向けた検討を行う。(行政・市民)

9 【重点】地域コミュニティ

現状と課題

田名地区では、コミュニティ組織の中心である自治会への加入率の低下や役員「なり手不足」が課題となっております。また、人が自然に集まれる場所の創出や、子どもと高齢者などの世代間の交流など、更なる地域活動の活性化が必要です。

対応方策

自治会本来の自主的な活動に取り組めるよう、自治会にとって負担となっている行政からの依頼業務の精査による負担の軽減を図る。(行政)

自治会や子ども会における役員「なり手不足」解消のために、負担の軽減を図る。(市民)

- ・自治会加入によるメリット(防犯、防災等)や地域活動の重要性を周知し自治会加入率の増加を図る。(行政・市民)
- ・地域におけるコミュニティ形成の場として誰もが気軽に集まり、世代間の交流ができる場所として、空き家の利用を検討する。(行政・市民)

(付 属 資 料)

会 議 経 過

日 程	会 議 内 容	委員出席数
平成30年 5月22日	第1回 ・地域の課題(良くなった・悪くなった点)の抽出	19名
6月19日	第2回 ・課題と対応方策検討	16名
7月18日	第3回 ・課題と対応方策検討	15名
8月21日	第4回 ・報告書のとりまとめ ・重点項目の検討	15名

